

いさおの本棚

男子の本懐

城山三郎 著
発行元:新潮文庫

城山三郎の「男子の本懐」はまだまだ多くの読者に読まれる名作です。日本の歴史上、浜口雄幸総理大臣、井上準之助大蔵大臣というコンビが「金解禁」という金本位制度を活用することにより、日本の不況を抜け出そうとする命がけの歴史を小説にした作品。なぜ今、この作品なのか?当然疑問があるだろうし、「金解禁」という政策も賛否両論があります。私がこの本の中で伝えたいのは、日本のために覚悟を決めて、命がけで取り組もうとする人物を見てほしいと思っています。日本を立て直すため、ぶれないハートと信念で、死をおそれず、日本の国難に立ち向かっていく背中に、政治不信が蔓延した今の時代に必要なリーダー像が見えてきます。立ち向かって逃げず誠意を見せること、どんな相手にも誠心誠意、そして大胆不敵に立ち向かうこと。リーダーとはなにか?そんなことを語りかけてくる人間の本質を貫く作品です。



いさおのグルメレポート

城東食堂

弘前市城東中央3丁目4-17
焼肉定食 650円

最初ここに来たのはいつだったか?住宅街に隠れて少し目立たない場所にあるが、良い匂いがして、暖簾をくぐったのが最初でした。一口食べた瞬間、この店のファンになってしまいました。カレーライス、親子丼、かつ丼、ラーメン、大体すべてのメニューを食べましたが、どれも「旨い!」。その中でも、焼肉定食を紹介すると、皿が肉で埋まっただけ、肉汁が溢れ、食べるほどに食欲がわいてきます!野菜やご飯の量も満点!!私のお勧めのお店です。



いわき食堂

弘前市一町田村元794-12
手打ち中華 580円
チャーマヨ丼 150円

昔は岩木山神社の前にあつたと言われ、今は岩木山の麓にある、老舗の大衆食堂。岩木山に行く時は、いわき食堂で昼ごはんしようと考えながら、ルートを決めたりします!ラーメンの味は煮干しのあつさり中華。値段も量も最中で、弘前の人間が大好きな風味のつまった一品。プラス一品という方には是非150円でチャーマヨ丼を!!

日本人らしく、つつましく、節度を保ち、清らかな心の通う人々で賑わうまちを目指したい

菊池いさお日記

KIKUCHI ISAO DIARY

弘前市議会での活動をはじめ、イベント参加の様子、いさおのオススメするグルメ・書籍を大公開!

Vol.04 2013.2.11



今回のなんぼいいば!

前号から3ヶ月。この間にもいろいろな「なんぼいいば!」がありました。その模様をフェイスブック風タイムラインにそってご紹介いたします。

いさおからのお知らせ

第9回 議会報告会

日時:2月21日(木) 午後7時~午後8時30分
場所:弘前市総合学習センター 4F 第3研修室
青森県弘前市末広4-10-1(駐車場有)
会費:200円(お茶・お菓子・資料代)
定員:36名

内容は昨年11月議会での一般質問内容、議会改革特別委員会の現状、2012年予算委員会の現状、議会以外での自分自身の活動状況、次回議会においての一般質問の質問予定項目についてご説明。

- 1.非常勤職員の採用と研修のあり方
- 2.事務事業評価の廃止について
- 3.弘前市の学校開放事業と体育施設について
- 4.弘前市のいじめ・虐待防止のための条例制定について

お申込み先 締切日:開催日前日まで 0172-27-5145 (担当:菊池)

第1回 まちづくりトーク

~弘前でtalk de show!!~

テーマ:
「人口減少社会をチャンスに!」
日時:2月24日(日) 午後2時~午後4時
場所:弘前市総合学習センター 2F 視聴覚室
青森県弘前市末広4-10-1(駐車場有)
会費:200円(お茶・お菓子・資料代)
定員:48名



特別ゲスト

兼頭 一司(しまの会社代表)

◎1971年生まれ ◎愛媛県西条市出身 ◎東京大学経済学部卒◎凸版印刷(株)にてITの社内ベンチャー事業立ち上げ・運営などに関わったのち2005年同社を退社し、松下政経塾入塾 ◎2008年同塾を卒業後に羽黒へ移住 ◎島民数十人の出資のもと、島民の島民による島民のための会社、「しまの会社」を設立 ◎目下、島の特産品開発・流通開拓やコミュニティカフェ「しまでCafe」の運営、高齢者向けサポートサービス、耕作放棄地再生プロジェクト「再生畑には夢がある」、地域と学校の連携による地域課題解決プロジェクト「しまLABO」など地域再生に取り組む ◎2010年、地域内外コラボ型課題解決プロジェクト「しまの大学」をスタート ◎2011年、過疎地域自立活性化優良事例表彰における総務大臣賞を受賞



弘前市議会議員 菊池いさお

弘前市城東北2丁目2-18
TEL.0172-27-5145 FAX.0172-27-5146
E-mail kikuchi@mskj.or.jp

公式ブログ「菊池勲の一路白頭に至る」

活動紹介中!!

ブログ <http://ameblo.jp/isao-kikuchi/>

今月感動したことば「Priceless(プライスレス)」

Pricelessは「お金」「価値」という意味です。Pricelessとなると「価値の無いもの」と意味をとらえがちです。しかし本当はどうでしょうか?深く洞察すると「値段や数値でははかりきれないくらい貴重なもの」と考えるのが、この言葉の本当の意味なのです。「志」「仲間」「信用」「情熱」など、「真に大切な価値に気づく」という意味の深さが含まれております。日本の昔話「わらしべ長者」を読むと日本人は昔から「目に見えない価値」を大事にしてきました。今はどうも違います。だからこそ、私はそんな価値を大切に出来る政治をしていきたいと「priceless」という言葉と出会い改めて思われました。

プロフィール:◎1981年5月22日生(双子座)A型 ◎弘前市出身 既婚◎弘前東小学校・中学校卒業 ◎弘前高等学校卒業 ◎東北大学理学部卒業 ◎「公財」松下政経塾27期生 ◎弘前市議会議員(1期目) ◎好きな食べ物:カレーライス ◎好きな動物:犬



いさおの議会コーナー

平成24年度9月議会一般質問

テーマ:街灯LED計画について

菊池:

①平成25年度以降、この街灯LED化の計画を現在どのように弘前市は進めて、そして現在考えていられるのかということに關しましての御答弁をよろしくお願ひいたします。
②ここ弘前市でも、10年先、20年先の社会を規定した一つの社会実験が「ライド・トゥー・パーク」であり、または「トランジットモールの社会実験」の政策であると思ひます。
しかし、現実としては、社会的実験以外にも具体的な街路設備計画としての歩行者または自転車利用者の想定をしてのまちづくりを行っていかねばならず、私は今回の視察を踏まえて痛感しているところがございます。そこで、この歩行者や自転車といった遅い交通、これらの計画に關しまして、今後どのような弘前市は計画を行い、そして行っていかうとしているか、この点についてお伺ひをいたします。

市長:

①全国的にも、消費電力の少ないLED街灯に更新する自治体はふえてきておりまして、友好都市の群馬県太田市や秋田市等においては、電気料の削減分を街灯の整備費用を賄うESCO(エスコ)事業により、広島県府中市等についてはリース契約により整備が行われていて聞いております。
このような状況から、本市においても必要な明るさを確保した上で、消費電量が少なく光源寿命が長いLED街灯の整備が不可欠であると考えております。
このため、街灯のLED化については、平成25年度から電柱等に取りつけている街灯約2万基をすべて更新する方向で検討してありまして、更新後の修繕や電気料の支払い等についてもLED化を機に町会等にかかわって市が行う方向で検討をいたしております。
今後のスケジュールといたしましては、今年度実地した町会等へのアンケート結果や街灯LED化に関する説明会において寄せられた意見や要望を参考に効果的、効率的な節電効果を見込んだ街灯LED化推進計画書を作成いたします。
この計画を町会等に提示し、同意を得た上で、平成25年度から街灯LED化を進めていくことを検討してあります。
②一方、今後のまちづくりについては、近年の少子高齢化や地球環境の問題、さらには中心市街地の機能充実に向けた都市構造のコンパクト化や中心市街地のトランジットモール化など質の高い都市づくりが求められております。
これにあわせて、自動車だけに依存しない歩行者や自転車を重視した交通体系へ転換が必要であることから、今後策定される弘前市都市計画マスタープランにおいても、歩行者や自転車について基本的な方針を位置づけることといたしております。
さらに、今年度は国土交通省国土技術政策総合研究所が自転車走行環境の調査として、全国の中からこの弘前市と長野県安曇野市の2市を選定、ブローパーソン調査を行うことになりました。
これにより、さらに精度の高いデータ収集が期待されるものと考えてありまして、既存の調査結果とあわせて作業をすすめることといたしております。

菊池:

①この2万本、これ今、市長の答弁にありましたが、全部行政が管理すると、2万本の本数を行政の今全体でみても1,400人の職員です。約1,400人の職員が管理するとなると、やはり限界があると思ひます。この管理方法を行政が本当にやるのか、それとも委託先をやはり決めているのか。その辺の考えをどのように考えているのか。その1点に關しまして、街灯に關しましてはお伺ひしたいと思ひます。
②今弘前市がもう1点考えないといけない、公共交通の中でLRTという選択というのは考えているのか。そして、またこれから公共交通の中で都市計画マスタープランを策定する中で、その辺のLRTに關しましてはどのような位置づけにするのかということに關して、もしここはお伺ひできればということ再度質問させていただきたいと思ひます。

市長:

①その手法として、例えばESCO(エスコ)事業を進めていくのか、市の直営でやっていくというふうな議論もあることはある。しかし、私は、やはりここはビジネスチャンスとして市内の事業者というふうなものを大切に扱ひながらLED化というふうなものを進めていく必要が

あるのだらうと思っております。その意味では、ESCO(エスコ)事業等というのは、極めて私はよい手法ではないのかなと、市としてのインシャルコスト、最初にかかる費用というふうなものについてほとんどないというふうな状況でありますので、そういう考え方も追求していかなければならないものと考えております。
②本市とは、導入に至る環境が異なっているということがあります。それから、車両及び軌道整備に要する費用がすごい高額であるということ、あるいは本市の城下町特有の狭い道路事情とさまざまな事情が富山市とは異なっている部分があるということは御理解いただけたと思ひます。
実際の導入については、慎重に判断する必要があると考えております。また、もう一つLRTと並んで、BRTというバス機能の高度化などについても検討していかねばならないものだと思っております。
このBRTと申しますのは、低床、静音な車両の導入とバスレーンによる利便性、快適性を高めた大量高速輸送を行う新しいシステムでありますので、この輸送システムとか他市の事例等を参考に今後十分な検討を行いながら、弘前にとって公共交通というものがあるのがベストなのかについて追求して行きたいと考えております。

テーマ:平成23年度の残業費について

菊池:

全国的に見ても、行政改革の中で残業費の増加が出ている傾向ではあります。各都道府県を初め、各市町村では行政改革の一環として、それら残業費の指標をつくり、残業費削減のための取り組みをスタートさせてあります。
弘前市のこれら前期計画の中には、この残業費の指標は使われておりません。近年ふえ続ける残業費に対して現在の弘前市の見解と取り組みについて、まずお伺ひしたいと思ひます。

副市長:

市では、これまでも時間外勤務手当の縮減及び職員の健康保持の観点から時間外勤務の縮減を図ってまいりました。具体的には、毎週水曜日をノー残業デーとし、定時退行に務めること、土日などに勤務した場合は可能な限り振りかえ対応をしてもらうこと、職員ごとの時間外勤務の状況を一覧表とし、1カ月ごとに各部長に配布し各課における勤務状況を把握してもらうことなどに取り組んであります。
時間外勤務が多い課の理由としては、特定の係や職員に事務分担が多く割り当てられ、特定の職員の時間外勤務が多いこと、イベントや季節に応じた業務など一時的に集中した時間外勤務が発生することなど課ごとに個別の事情がかかわっております。

菊池:

季節によって例えば春のさくらまつり、冬の除雪というのは毎年恒例だという答弁がありまして非常勤職員も雇用している。私これ調べましたら2名、道路維持課ではしてあります。確かに12月からですね。それで、これ見ていくと、土木課から3人の応援を要請してるといふことですけれども、現状それでは足りないというの、私は多分実感であり現状だと思ひます。
そういう体制の中で、要するに繁忙期の中でどれだけ全庁的な応援を得られる体制をつくれるかというのを青森はやっています。今、弘前では土木課3人という形でお話してはいますが、私もいろいろ建設業者とかと話をすると、かなり道路維持課の職員、現場というのはかなり、朝から出勤して次の日の夕方、夜まで出勤しなければいけない状況というのがあるのだという話を一部から私も聞いたことがあります。
そういう状況が普通であつていいのかということなので、この問題は。もっと言えば、全庁的な応援をもとに、それをいかにして時間をずらして、勤務時間をずらして少しでも負担を下げながらより精度のいい仕事ができるかどうかということを、私は検証してほしいと思ひます。この問題。この辺に關しましては全庁的な繁忙期がわかつてはいるものがあるのあれば、全庁的な応援体制をどうやってつくるのかということももう少し私は検証すべきだと思ひますけれども、それについて答弁をお願いします。

総務部長:

議員の御指摘はよくわかりました。しっかり検証させていただきます。

札幌市に除雪行政の視察へ

2013年1月21日~22日

雪国にとって冬は除雪が最大の課題です。日本最大の予算規模、そして日本最先端の技術が終結した都市である札幌にヒントを求め、1泊2日で視察に行つてきました。除雪に対して、街の作り方のヒント、文化の違いによる制度の違い、下水道を活用した流雪槽など、色々と学びの多いことと、雪国特有の共通することを学ぶ視察となりました。



212人がなんぼいば!と言っています。

弘前東ロータリークラブで講演!

2013年1月16日

弘前東ロータリークラブで講演を行いました!機会を頂き、本当にありがとうございます。他にも日創研での講演や社内勉強会など、色々な方と語り合う機会が多く、私も気づかされる機会が多々あります。2013年も2か所での講演が決まっております。私にしか伝えられないことをしっかりと伝え、何か良い出会い、良いきっかけになるように、機会を頂いた皆様のために感謝の心を忘れず、講演していこうと思ひます。

116人がなんぼいば!と言っています。

上島町長選挙応援へ!

2012年11月2日

松下政経塾の仲間、全国各地におります。国政においては、自民党、民主党、日本維新の会など、幅広く、さらに地域のために活動する市長、知事、そして地方議員など、それぞれの志を遂げるために活動しております。そのため、それぞれ困った時など、いざとなると一致団結するも塾の仲間です。写真は、政経塾の若手地方議員で、上島町長に立候補した兼頭一司候補を応援に行つた時の様子です。



112人がなんぼいば!と言っています。

現在

府中へ地域密着型スポーツクラブを視察へ!

2013年1月28日

昨年、弘前市に私の所属する市民球団「弘前アレッツ」、そしてサッカーチーム「ブランデュー弘前FC」が誕生しました。行政に関わるものとして、1人の市民として、同世代の頑張る仲間が地域に根差した活動と本業であるスポーツが目的達成できるように、先進地事例を学びに行つてきました。ちょうどフットサルの最高リーグ「Fリーグ」最終戦、1300人近いサポーターにより、会場のボルテージは最高潮でした。弘前でこんな熱気を感じる試合をみんなでつくっていきたくて改めて思つておりました!

128人がなんぼいば!と言っています。

アップルロータリークラブクリスマス例会開催!

2012年12月23日

私が幹事をつとめる弘前アップルロータリークラブは、クリスマスの日にお互いの家族や様々な先輩クラブと懇親を深めることを目的にクリスマス例会を開催しました。日頃は、会員が真剣な議論をしていることが多いのですが、今回は、家族や他の仲間と共にいるとまたいつもと違った笑顔いっぱい表情が見えてきて、非常に賑やかな会になりました。良い仲間に出会えた一年だと実感しております。

123人がなんぼいば!と言っています。

議会

議会報告会開催!

2012年11月18日・21日

今回も日曜日の日中と水曜日の夜の2回に報告会を分けて開催しました。合わせて、50人近い参加者でにぎわいました。特に今回は、議員定数削減についてと、ジョツバルの再生に対する質問が相次ぎました。私は議案に賛成した立場として、説明責任を果たすのは議員の役割だと思ひます。今後とも意見を聞く場をつくるため、しっかり頑張ります!

50人がなんぼいば!と言っています。

2012年

これ以前の記事を表示

いさおの人間ウオッチ

The 同世代!! 斎藤猛特集(ダーツ競技のプロ選手)

- 菊池:「今日は、弘前高校と一緒に野球をやつてきた仲間、現在プロのダーツプレーヤーとして活躍する斎藤猛選手にインタビューしてみました!」
菊池:「お久しぶり。当時は野球部のキャプテンで先頭バッターをつとめた猛が、今はプロダーツプレーヤーとなったと聞いて正直驚いたよ!ダーツは何がきっかけではじめたの?」
猛:「当時はプロフェッショナルな生き方に憧れをもつていて、ダーツというのを知って、自分にピッタリなスポーツだと思つて始めた頃かな。この分野のプロフェッショナルになりたいと思ひ、練習を始めたのがきっかけかな。」
菊池:「なるほど。確かに猛は、昔からプロフェッショナルな生き方をしようとしていたような気がする。俺も何回かはダーツをしたことあるけれど、まず狙った所になかなか飛ばない。狙った所に飛ぶと嬉しいみたいな感じだけれど、プロはもっと違うレベルでおもしろさがあると思うけれど、どんなところ?」
猛:「プロダーツはメンタルの勝負みたいな感じかな。ここ一番の大勝負になればなるほど、精神的なレベルでのかけひきが必要となると、これが楽しいし、見ていてもすごく面白い!」
菊池:「松下幸之助の言葉に『成功の要諦は成功するまで続けるところにある』って言葉を思い出した。プロとして活動している人がいうとやっぱり説得力があるね。さて、猛はダーツのプロとして、弘前で暮らしながら活動しているってことは、弘前のためにダーツを通してやつてみたい活動とか考えているの?」
猛:「あるよ!ダーツは、非常に手軽に、楽しくできるスポーツだと思う。ダーツを通して若い人からお年寄りの方まで幅広くやれるようになれば、ルールも簡単だし、世代間交流や健康のためにも活かせるし、地域活性化の一つの要素になると思ひますよ。これからそんな地域貢献をやつていきたいな。」
猛:「僕はダーツを通して弘前に貢献できませんが、みんなでもっともっと活気のあるまちにしていきたいと思ひます。ダーツも弘前も大好き!!」



経歴 ◎弘前市出身 ◎2000年3月弘前高等学校卒業 ◎2010年D-1フェスティバル若手優勝 ◎2010年DARTS LIVE エリア(北日本)トーナメント 優勝 ◎2011年プロダーツライセンス取得 ◎2011年D-CROWN(プロツアー)新潟大会 3位 ◎2012年JAPAN(プロツアー)山形大会 3位 ◎他多数 入賞
【日頃はNON STYLE青森県弘前市高田2-1-3でダーツバーやつてます!】